



市民祭

今年も十一月三日に市民祭が盛大に開催され、松本市の中心街は歩行者天国に成り、近郷近在の人々はどっと繰り出し、あらゆる所で人があふれていた。松本城を始めあちこちでセレモニーが行われると共に、踊り連・神輿・ブラスバンド・武者行列等が歩行者天国を行進して行った。

各商店は歩行者天国に店を出し特価品を売っており、客はあちこちで品定めをして買っていた。だいぶ安かったのだから、大きな袋にいっぱい買っていった客もいた。通りを歩いて見ると、外国人の観光客も多く、あちこちの露店をのぞいて、日本独特の食べ物を買って、珍しそうに食べているのが目についた。

私の子供の頃には売り出しと言えば、えびす講の売り出しを思い出す。小学校の低学年の頃、このえびす講で足袋を買って貰った記憶が有る。終戦後間もなくだったと思うが、母親は私と妹を連れ、田舎から松本へ出て来てどこの店か分からないが、私に足袋を買ってくれた。嬉しくてその足袋を自分で大事に持って、今から思えば大名町を通り、お城を眺めるために回り道をして緑町へ行ったと思う。そこでうどんを食べたが、それが又楽しみの一つで美味かった。寒くなり母は歌の通り夜なべをして綿入りの半纏を縫ってくれた。冬は服の上に半纏を着て、買って貰った足袋を履き、下駄で学校へかよった。皆貧しかったが苦に成らなれない時代だった。松本は商業の町でもあり、観光の町でも有るため、世界中から来てもらえる魅力ある街だ。現在世界遺産に登録すべく準備中と聞いているが、この市民祭も続けて行けば、世界中の人々に理解され、登録も実現するだろうと確信している。

平成二十年十一月

山崎 静雄